

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年8月1日

【評価実施概要】

事業所番号	1196000069
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	坂戸グループホームそよ風
所在地	〒350-0201 埼玉県坂戸市大字赤尾1893-1 (電話) 049-280-6161

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65
訪問調査日	平成20年7月31日

【情報提供票より】(平成20年7月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	7 人	常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.95人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての1階～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (300,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 200 円
	または1日あたり 円		

(4) 利用者の概要(7月12日現在)

利用者人数	5 名	男性	2 名	女性	3 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 75.6 歳	最低	73 歳	最高	78 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	若葉病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、緑に覆われ自然に恵まれた静かな住宅街にあり、全国ネットで介護事業を行っている法人が昨年12月に開設した2ユニットのグループホームである。現在5名の利用者が、生き生きとした明るい表情で、職員と一緒に楽しくゆったりと生活している。広いスペースで、清潔で、スッキリとしており、室内を散歩できるようになっている。今年の7月、地域への介護セミナー「後期高齢者医療制度と介護施設の活用法」を実施した際は、地域住民の多くの参加が得られ、地域とのより密接な関係作り、そしてより良い介護に向けての意欲が伺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初めての外部評価である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、職員に分担して各人が記録したものをセンター長がまとめている。職員全員が評価の意義を理解しており、出来上がった自己評価を職員に配布するとともに、外部評価の結果は月1回行われる全体会議で話し合う予定である。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、3か月に1回行うように計画されており、5月に1回目を実施した。会議には本社の営業部、民生委員、地主、地域包括支援センター、家族、職員が参加し、1回目ということもあり、現在のグループホームの状態を紹介することが主な内容であった。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月、ホームの便りである「そよ風便り」、金銭管理帳、日常生活の状況を記録した手紙を家族に送付し、また、面会時には話しかけて意見や苦情が言いやすい雰囲気作りを努めている。また、家族全員に運営推進会議に出席するよう声かけをし、家族の意見、苦情、不満に対応している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>グループホームのオープンには地域の方々80名の参加があり、また7月に行われた介護セミナーには大勢の参加を得た。散歩時には近所の方に挨拶をし、差し入れもいただいたりしているが、積極的な町内の行事への参加までには至っていない。現在はホームのイベントに招待を計画中であり、またボランティアの導入など検討中である。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	経営主体の会社と同様の「私たちは、高齢者社会で果たす役割の重大性を自覚し、明るく元気ですこやかなヒューマンライフを支えます。」という理念を掲げている。		教育に力を入れ地域への貢献もしているため、今後も地域の中でその人らしく生活できるサービスを考えながら、将来的には事業所独自の理念を作り上げていくことを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務所に掲示し、職員は月1回行われている全体会議で話し合い、日々理念の実践と共有に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	7月に実施した介護セミナーでは、大勢の地域住民の参加を得た。散歩時に近所の人に挨拶したり、差し入れをもらったりしているが、自治会に加入していないため町内の行事に参加していない。ボランティアの導入やホームのイベントへの招待を検討中である。		自治会へ加入するなどし、町内の行事等の情報を得て、積極的に地域活動に参加することが求められる。また、運営推進会議に町内会長の参加を再度依頼し、協力が得られることを期待する。ボランティアの導入やホームのイベントへの招待を実施することで交流が深まることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員に分担して各人が記録し、センター長がまとめて出来上がった自己評価を職員に配布された。全職員が評価の意義を理解しており、外部評価の結果を全体会議で検討する予定である。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に1回行うように計画されている。1回目は5月に実施し、参加者は本社の営業部、民生委員、地主、地域包括支援センター、家族、職員で、現在のグループホームの状況を紹介することが主な議題となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2か月に1回、市役所が主催する坂戸グループホームとの連絡会議に参加している。常時、市町村担当者へ報告、相談をして連携を取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、ホームのそよ風便りと一緒に、金銭管理帳と日常生活の状況を記録した手紙を送付している。また、急を要するときは電話で報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には声かけをして、話しやすい雰囲気作りに努め、また、運営推進会議への出席を全家族に依頼し、意見などの反映に努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今まで退職者、転勤者はいない。今後、ホームのそよ風便りで報告し、利用者にも説明して、ダメージを防ぐ意向である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社組織で、研修体制が出来ている。会社内の研修、ホーム内の全体会議での勉強会も行われており、報告体勢も出来ている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の連絡会議が2か月に1回行われ、積極的に参加して同業者との交流を図っている。今後は利用者同士の交流も考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	積極的に体験入所を受け入れることで、本人や家族と馴染みの関係を築くようにしている。納得してからの入所に努めているが、家族の都合等でその段階を踏めなかった場合は、家族と相談しながら安心して過ごせるような支援に取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員は利用者から囲碁を教えてもらったり、一緒にケーキ作りや食事の準備、後片付けを楽しみながら行っている。役割分担が自然に出来ており、日々の生活の中で支えあう関係が築かれている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	日々利用者に声かけをし、話をじっくり聞くようにして、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。また、月1回のケアカンファレンスや連絡ノートで情報の交換をし、共有化に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	月1回のケアカンファレンスで話し合うとともに、面会時に家族からの希望などを聞いて、計画担当者が計画を作成している。家族には出来上がった介護計画を送付して報告している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	月1回のケアカンファレンスで要点を話し合い、記録してモニタリングを行っている。変化のないときは3か月に1回見直しをし、変化のあるときは随時行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望にそえるよう受診の介助など状況に応じて柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医に受診している。職員は利用者個々の受診介助をしている。また、協力医とも連携を取り適切な医療を受けられるように努めている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は重度化したときの対応は行っていないが、今後の方針としてはターミナルケアの実施を検討しており、話し合いを重ねて共有に努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りを尊重してプライバシーを確保し、個性を大切にしながら支援することを心がけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、歩行の際などは、利用者一人ひとりのペースを大切にするとともに、利用者の希望がかなうよう日々心がけながら取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と一緒に買い物へ行き、準備も出来ることは行って、職員と共にゆっくり食事を楽しんでいる。皆で食事をしていることが、食の美味しさにもつながっているように伺える。後片付けも利用者と職員が一緒になって楽しみながら生き生きと行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴することが出来、平均すると隔日ごとに入浴されている。現在はないが、夜間入浴の希望があれば可能な限り対応するつもりである。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手紙を書く方、囲碁の得意な方、食事の後片付けをする方、洗濯たたみ、塗り絵、毛筆練習、菜園など、役割や楽しみごとの場面が自然に作り出されており、活力のある生活を送ることができるように努めている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩等は日常的に行っている。また、一緒に買い物へ行ったり、外食も取り入れるなど、できるだけ戸外へ出かけられるように努めている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い利用者があり、玄関が見えにくい所にあることもあり、安全面に配慮して鍵をかけている。家族には説明し納得してもらっている。職員は見守りし、利用者の外出したい様子を察知した際は、広いホーム内を一緒に歩いたり、外出支援をすることで対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携を取っている。実践訓練を年2回実施しており、緊急対応マニュアルを作成し、消火器を設置している。近隣の住民には声かけをしており、今後運営推進会議でも話し合う予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	会社の管理栄養士が献立を作成しているが、利用者の希望で変更することもある。摂取量については記録しており、食欲がないときはお粥や混ぜご飯にしたり工夫を凝らし、主治医にも相談している。また、水分摂取にも気をつけており、体重測定は月1回実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、広くスペースがとられており、ゆったりしている。居心地良く過ごすことができるように、清潔で、明るく、すっきりとしたつくりになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みは自由であり、以前使用していた馴染みのもの飾ったりすることで利用者が安心してゆったりと過ごせるように工夫している。		